

平成30年度 第3回 小平市文化財保護審議会 要録

日 時 : 平成30年11月15日(木) 午後1時30分～午後5時

場 所 : 本庁600会議室

出席者 : 小平市文化財保護審議会委員 会長ほか委員9名(欠席者なし)
事務局 文化スポーツ課長、文化スポーツ課長補佐、主任 計3名

傍聴者 : なし

議 事

報告事項

遺跡ウォーク「こだいらの遺跡をあるく」の実施について

- 【委員】 これまでと比較して参加者が少ないと感じる。客層はどうであったか？
- 【事務局】 50代以上、高齢者が中心であった。
- 【委員】 若い人への周知は、インターネットがよいのでは？
- 【委員】 フェイスブック・ツイッターも使うとよいと思う。
- 【委員】 参加申し込み方法もインターネットを活用したらどうか？
- 【委員】 参加する側としては、電話申し込みを受け付けてくれると楽でよい。
- 【委員】 周知は紙チラシが一番着実である。
- 【会長】 周知は地道にやるのが実は効果的である。
- 【委員】 委員も事業に協力するべきでは？
- 【委員】 委員も自身の家族・親戚に声をかける等の協力はできると思う。
- 【委員】 鈴木遺跡は小平市の重要な文化財であるから、市は鈴木遺跡のPRに力を入れるべきである。
- 【委員】 遺跡だけではなく、他の文化財と併せて見学するような内容にするとよりイベントの魅力が高まると思う。

3 議 題

(1) 第1回文化資源候補現地視察の結果について

たから道について

- 【委員】 市民は、市内の表通り沿いの文化財は目につきやすいこともあり比較的普及が進んでいると思うが、前回視察した「たから道」などは表通りに面した屋敷の裏側にあり、知られていないと思う。こうした目につきにくいものも周知を図るべき。
- 【会長】 たから道は小平の懐かしい景色である。いつまでこの景色が残るだろうか？

【委員】 小平に残るたから道以外の伝統的な風景として、農家の垣根にはウツギが使われている。このウツギの垣根も市内に残っているところがあり、乾燥した小平の風土に適した風景として重要である。

西部拝島線の踏切群について

【委員】 西武拝島線沿線上の小川駅以西になぜこれだけ踏切があるのか、市内文化資源候補視察を行ってよくわかった。ここは（江戸時代に行われた新田開発で計画された）短冊型地割された畑を横断するように線路がつくられ、畑を行き来するために区画間にある間道が寸断されてしまった。線路によって寸断された畑を往来するために、間道ごとに踏切が設けられた。そうした小平市の歴史をこの踏切群は物語っていることがよくわかった。

【委員】 自身が調べた限りでは、拝島線のこの区間における踏切数は、もしかすると密集度は日本一かもしれない。

【委員】 小平市史に、この踏切群のことについて記載してもよかったのでは？と思う。

小島水車廻し掘りについて

【委員】 水車は人間の興味を引く存在だと思う。水車通りの名称由来でもあることから、これは説明看板を設置したら市民に楽しんでもらえるのではないかな？

(2) その他

資料紹介

【委員】 小平市立第四中学校門柱の表札は、ノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹博士の筆によるもので、四中開校時に当時の学校長が湯川博士に依頼してきた。将来的にはこうしたものも文化資源候補になりうると思うので、報告する。

4 文化資源候補現地視察

- ①（小金井サクラ小金井橋花見茶屋）（車内より、委員解説）
- ②（範多農園）（委員解説）
- ③鈴木新田用水・田無用水交差点（委員解説）
- ④馬の背（委員解説）
- ⑤円成院旧山門（委員解説）
- ⑥大沼田用水築堤（委員解説）
- ⑦掛石橋五ヶ所供養塔（委員解説）
- ⑧当麻家陣屋門及び建物（車内より、委員解説）